したがって，今後も，交流教育の充実を図るため，学校相互の連携を密にするとともに，各学校における教育活動の全体を通して，障害児が健常児や地域社会の人々と活動を共にすることのできる機会を計画的に設定し，社会性や好ましい人間関係を育てるよう努める必要があります。

表８－３　養護教育推進事業及び地域交流推進事業実施状況

（単位：人）

学校＼年度	59	60	61	62	63	元	2	3	4	計
盲・聾・養護学校小学部と小学校	244	150	188	159	147	123	81	73	154	1,319
盲・聾・養護学校中学部と中学校	164	263	209	218	120	64	71	65	179	1,353
地域社会	－	－	－	－	－	－	－	45	70	115
合計	408	413	397	377	267	187	152	183	403	2,787

（注）　1　地域社会との交流は，平成３年度から実施。
　　2　昭和54年度～平成４年度までの累計は5,888人。
（資料）　養護教育課調査

(4)　生徒指導・進路指導の充実

ア　生徒指導の充実

障害児の指導上の課題としては，基本的生活習慣の未確立や自我の未発達に伴う問題，社会規範の理解や遵守にかかる問題等，日々の生活を通して改善すべき問題が多くあります。

したがって，障害児の実態に応じた指導計画を整備するとともに，家庭や施設等関係機関との連携を密にし，一人ひとりの生活面での指導を充実していく必要があります。

イ　進路指導の充実

進路指導については，一人ひとりの将来の進路を考慮し，児童生徒が自ら障害を改善，克服して，積極的に社会参加・自立しようとする意欲を高めるため，将来における生活に必要な知識・技能・態度の育成を図るとともに，関係機関との密接な連携や進路開拓などに努めてきました。

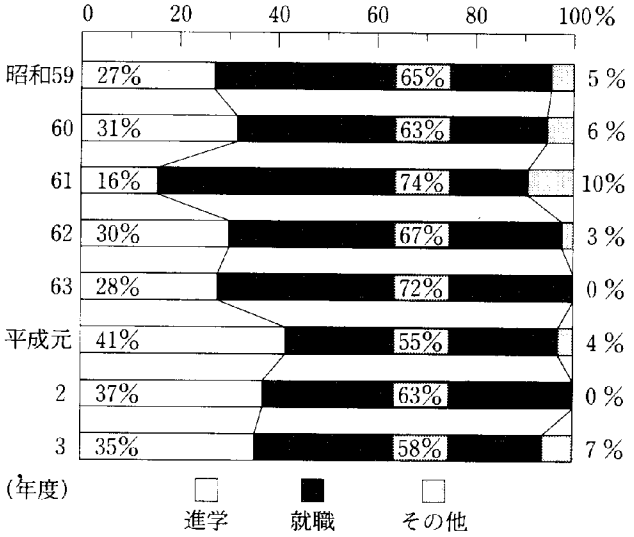
盲・聾学校における中学部の卒業生の進路は，高等部に進学する生徒が多く，高等部の卒業生も，進学が年度ごとに増減があるものの，全体的には増加の傾向をみせております。また，就職も順調に推移し，社会自立が図られていますが(図８－３)，障害があるためにその職種が限られているのが現状です。

また，養護学校の進路状況をみると，中学部の卒業生においては，進学及び就職が大半を占めていますが(図８－４)，高等部の卒業生は進学及び就職が約半数を占めているものの，施設入所・家庭保護が増加傾向にあります（図８－５)。

したがって，今後とも，障害児一人ひとりの将来の進路を考慮し，必要な知識・技能・態度等の育成に努める必要があります。

さらに，障害者雇用促進協会や事業所等

図８－３　盲・聾学校高等部卒業者進路状況



（注）　1　進学は，専攻科，大学，職業能力開発施設，各種学校である。
　　2　その他は，施設，病院，家庭保護等である。
（資料）　養護教育課調査